

発行責任者
公益社団法人隊友会 神奈川県隊友会
湘南支部長 清崎 忠園
平塚市豊原町 23 - 14
Tel(Fax) : 0463-31-6718

隊友

湘南支部ニュース

国民と自衛隊との架け橋！

“統一教会は宗教問題ではなく、政治問題そのもの”
支部顧問 中尾 眞

◆統一教会誕生の経緯
統一教会の成立に際しては、朝鮮戦争が深くかかわっており、同戦争において米軍は共産主義者として多くの韓国人を虐殺した経緯もあり、韓国国内においては反米的な空気が蔓延していた。そこで米国は、この反米感情や米国への怒りを回避させる為には、その矛先を日本に向けて、反米を反日に変えることを考えた。李承晩大統領による反日教育の背後には、米国の存在が色濃く影を落としている。

更に、もう一つ利用したのがキリスト教であり、米国は建国当時から世界中の国々をキリスト教国家とすることを目指した。因みに米国は日本にもキリスト教を根付かせようとしたが、仏教や神道の力が強いこともあり失敗した。ところが、韓国の場合には、儒教の考え方やキリスト教の考え方が親和的でキリスト教が根付く素地を宿していた。

米国は本国から様々な宗派の宣教師を招聘してキリスト教を根付かせた。韓国内においては、カソリックやプロテスタント、モルモン教などの様々なキリスト教宗派の教えが広まったことにより、宗教的には、日本とは全く異なる韓国独特のキリスト教国家が誕生することとなる。このような流れの中で朝鮮戦争休戦の翌年1954年に文鮮明は世界基督教統一神霊協会（統一教会）を設立した。

◆米国の関与

朝鮮戦争後の韓国経済は危機的状況であったが、日本は朝鮮戦争特需によって潤い始め、戦後の経済発展の基礎が構築されることとなる。

そこに目を付けた米国は韓国経済復興のために日本からの資金拠出を企図して、1965年の「日韓基本条約」締結に大きな影響力を行使した。その結果、日本から韓国に総額8億ドル（政府借款有償無償5億ドル、民間借款3億ドル）もの巨額な援助資金が拠出することとなる。当時の日本が保有する外貨は僅か10億ドルに過ぎなかったにも拘わらず、その大半を持ち去られることとなる。米国政府からは、「日本から有り金の全てを韓国政府に譲渡せよ！」との働きかけがなされた。

一方では、このような公的資金の拠出と同時に、韓国政府は統一教会から多額の資金を上納させた。その背後では、統一教会は日本の民間信者から多額の資金を巻き上げていた。それを正当化する教義としてアダムとイブの話を持ち出して、韓国はアダム国家であり、イブである日本は韓国に尽くさなければならぬ。日本の信者が統一教会に献金することは、当然のことであるとの教義を植え付けた。統一教会の資金は朴大統領の政治資金として使用されることとなる。

このように統一教会の問題はカルト宗教の問題に留まらず、本来、日米韓の戦後の歴史そのものを問い直す問題を含んでいる。現在、統一教会に関しては、宗教上の深刻な問題として議論されているが、完全な政治問題に他ならない。

◆統一教会が米国の政治中枢に入り込め得た背景

統一教会は日本の信者から吸い上げた巨額の資金を米国の政治家に献金していたが、背後には、KCIAが暗躍した。更に、朴大統領による米国政界への

工作資金としても活用された。朴大統領は文鮮明の才能に目をつけて、KCIAは統一教会を米国攻略のために利用した。統一教会は韓国政府の後ろ盾により、米国政界の中枢部に浸透することができた。

令和4年度

「安全保障トークサロン」の開催

支部理事役 高鹿 治雄

湘南支部は10月15日(土)に、令和4年度「安全保障トークサロン」を藤沢市商工会館ミナパークにて実施しました。昨年度に引き続き感染防止措置（参加者のソーシャルディスタンス確保、懇親会の取りやめ等）を講じた上で、会員、特別会員等の総勢30名により開催することができました。

本トークサロンは、コロナパンデミックが発生した令和2年度（2020年）に一度だけ中止されましたが、その歴史は古く通算26回を数え、平成29年度（2017年）からは西湘支部との合同開催となり、今年が「第5回合同安全保障トークサロン」となりました。

今回のトークサロンのテーマに入る前に、湘南支部の安全保障トークサロンの歴史を振り返ってみると、本トークサロンは25年以上前に、会員自らテーマを選んで意見を発表し、参加者全員でそのテーマについて討論する勉強会スタイルではじまったと伺っています。その後、会員数も増え会員一人一人の経歴や専門分野も不明なことや発表者やパネラーを任せられた会員の負

担なども考慮し、徐々に部外講師をお招きし、講演とそれに対する質疑応答するスタイルに変化しました。このスタイルは他の組織団体が実施する講演会スタイルと変わらなくなり、やはり開始当時の湘南支部会員相互の勉強会スタイルに戻そうという意見が多くなりました。また、会員の参加状況が年々減少傾向にあり、コロナ前は参加者の多くが地元防衛協会・議員等や父兄会などの協力関係団体や県内の自衛隊部隊関係者でしたが、肝心の支部会員の参加は低調で、支部役員（顧問等を含む）を除くと正会員の参加は僅かという状況でした。そこでもう一度原点回帰するとともに、当支部の「安全保障トークサロン」を会員にとつて魅力あるものにするため、6年前に西湘支部との「合同開催」とし、テーマや講師の選定段階から新たな歴史が再スタートしました。

本トークサロンの歴史を踏まえた上で今年のトークサロンのテーマである「日本国民と我が国の安全保障」に目を向けてみたいと思います。ご存知のように今年2月に起こったロシアのウクライナ侵攻を受けて、嘗てないほど日本の安全保障に対する関心が高まっていることから、これまでのトークサロンとは視点を変えて、国民目線による日本の安全保障に焦点を当てたいと考えました。防衛・安全保障関連の専門家としての目線ではなく、日本国民は今の日本をどう思っているのだろうか？なぜ憲法改正議論が進まないのだろうか？を少しでも理解するため、今回の講師には防衛省自衛隊出身者ではなく、国民目線を代表する民間人として幅広く活躍中の四方輝夫氏を講師にお招きしました。

四方氏を簡単にご紹介します。本トークサロンで四方氏が自己紹介で強調されたことは、肩書は色々ありますが本業は作家で「夢はドストエフスキーを超えること」ですと大きな夢を持って生きていきたいと熱く語って居られました。私が四方氏を講師にお招きしたのはその大きな夢は、作家活動を続けながら産経新聞のI Z Aブログを介して多くの同志たちと出会い、目に見える実績があるからです。同志には産経新聞の阿比留瑠比氏、生前の安倍晋三氏もおられ、第一次安倍政権崩壊に直面して安倍政治再興会（現・日本再興会）を立上げて見事安倍氏の復活を実現させて居られます。特に最近では政治経済、IT分野で執筆されながら、敢えて世間からの批判を恐れず、正しいと信じる情報や日本国民に伝えたい情報を積極的に発信しておられます。

今夏の参議院選挙中に安倍元首相が暗殺されるという日本ではあつてはならない大事件が戦後初めて起こりました。ところが、安倍元首相暗殺よりも「統一教会問題」の方を問題視するマスコミや、安倍元首相の国葬に反対する不毛の非難合戦が起こったことは良くご存知のことと思います。

先ほど「ウクライナ侵攻後は、嘗てないほどに日本の安全保障に対する関心が高まっている」と述べましたが本当にそうでしょうか？サミュエル・スマイルズの「自助論」の中に「政治は国民を映す鏡である」と指摘した有名なくだりがありますが、今の日本はまさにその典型ではないだろうかと危惧される方も多いと思います。

そこで四方氏に今の日本人と日本の政治について本音で語って欲しいとの思いから「日本国民と我が国の安全保障」というテーマで講演をお願いしました。当日の四方氏レジュメの大きな項目は、「国を守る」とはどういうことか、「私たちの周囲にはどのような脅威があるのか」、「私たちの安全保障は戦略として成り立つのか」の三つでした。四方氏の講演はどれも深い学識と見識、そして最新のデー

タに基づく刺激的な内容で、私が軽々にご紹介すると誤解を招いて講師にご迷惑になっていけないので内容紹介は割愛します。その代わりに今回四方氏の講演を拝聴して、「政治は国民を映す鏡である」と改めて深く考えさせられたのでそのお話を少しさせて下さい。サミュエルの「自助論」には「国がどんな法律や政治をもっているか、そこに国民の質が如実に反映されているさまは、見えて面白いほどです。りっぱな国民にはりっぱな政治、無知で腐敗した国民には腐りはてた政治しかありえないのです。」(抜粋)とはつきり書いてあります。今回の安全保障トークサロンを通じ、改めて我が日本の国民と日本の政治の質を直視し、激動する世界と日本の今をマスコミ等のフィルターを通さず我が国の安全保障についての課題を知ることができました。当日はレジュメに沿って四方氏が丁寧な講話されたため、質疑応答時間がなくなるハプニングはありましたが、初めて四方氏の講演を拝聴して目を丸くしている会員もおられました。

最後に私が代表して「こんな日本ですが、どうしたら良いのでしょうか？」と質問しましたところ、四方氏からは「良い答えはありませんが、国民のみなさんにこのような機会を通じて直接お話をすることが大切と考えております。」というご回答がありました。今回はコロナ禍でのトークサロンのため、講演時間(質疑応答を含めて90分)が短く、会員相互の活発な意見交換までには至りませんでした。支部会員30名の参加がありましたことは新しい一歩を踏



講師：四方輝夫氏

み出せた気がします。残念ながら今回参加できなかった方は参加された会員に本トークサロンの内容については是非聞いてみて下さい。本トークサロンを通じて、当日会場だけでなく、日常生活や諸活動においても会員相互の交流の活性化を期待します。

まだまだ、新型コロナウイルス感染症拡大をはじめ、ウクライナ侵攻や北朝鮮のミサイル発射事案など、これからの日本を取り巻く環境は不安定ですが、隊友会湘南支部として我が国の安全保障に何が貢献できるか追求しながら、これからも安全保障トークサロンの拡大充実に邁進しますのでよろしくお願いいたします。

支部会員による2023

第44回神奈川自衛隊音楽まつり協賛

湘南支部長(十月三十一日現在) 多くの会員各位から協賛をいただきました。ご協力に感謝申し上げます。

- (順不同・敬称略) 堀井光男、和栗清、塚本昌紀、平形武夫、日高昭、荒木裕高、蛭田信次、西海誠美、塩川儒廣、関克行、常光康弘、三澤征治、坂西厚隆、荻原洋聡、太田純一、櫻井貴裕、春日敏、岩岸久子、西村剛、砂川武敏、小甲顕史、林 祐、野田義信、泉川博、宅野順彦、高鹿治雄(総合計協賛者数70名)

令和4年度年会費納入者(順不同・敬称略)

湘南支部長(十月二十九日現在) 次の会員各位から年度会費を納入していただきました。ご協力に感謝申し上げます。

特別会員

塚本昌紀、

正会員

太田純一、鶴岡暁、

元湘南支部相談役

根津良蔵氏の急逝を悼む

隊友会湘南支部長 清崎忠園

令和4年11月16日肺炎のため根津良蔵氏が急逝(92歳)されました。

故根津良蔵氏は、隊友会横須賀支部特別会員及び鎌倉防衛協会会長として長年に亘り活躍されました。また藤沢地区自衛隊協力6団体の一員として、例年12月末の「海上自衛隊掃海艇へのしま湘南港入港歓迎行事」、1月の6団体主催「新春の集い」そして2月の「陸海空自衛隊入隊・入校予定者激励会」等の実施に献身的に尽力されました。

当隊友会湘南支部との関係は、平成28年(2016)から令和2年(2020)の4年間湘南支部相談役としてご協力いただきました。ご他界の2週間ぐらい前には、6団体の行事の件で電話いたしました時は何時もと変わらないお元気な声でしたので計報に驚いた次第です。

ご生前、長年に亘り湘南支部が賜りましたご協力、ご指導に対し衷心から厚く御礼申し上げますと共に、謹んでご冥福をお祈りいたします。合掌

支部会員の訃報

謹んでご冥福をお祈り致します

- 故 野田 孝一 氏(中郡二宮町) 令和4年 9月 9日 ご逝去
- 故 野地 昭史 氏(中郡大磯町) 令和4年11月10日 ご逝去

「支部の予定」

- 12/02(金) 広報官激励会(検討中)
- 12/10(土) 第8回支部理事役会
- 12/21(水) 12月隊友紙発送
- 01/14(土) 第9回支部理事役会
- 01/18(水) 1月隊友紙発送
- 02/18(土) 第10回支部理事役会
- 02/22(水) 2月隊友紙発送